

子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (学校・地域を避難所として想定した防災キャンプ)

防災キャンプ推進事業(訓子府町防災キャンプ)

訓子府町教育委員会

【事業のポイント】

○自然に恵まれた北海道において、近年、気象変動により経験のないような大規模自然災害が発生し、特に道東エリアでは暴風雪への適切な対策や対応のノウハウを蓄積することが必要となっているため、防災キャンプを実施した。

○防災キャンプを通して、持続的に地域コミュニティを活用し、地域のプラットフォームを構築することを目的とした。子供たちの体験活動や野外教育等を推進するとともに、子供たちの学びを支える人材の育成やネットワーク化を推進していくことを目指した。



1. 企画

(1) 事業実施の背景

北海道は、積雪寒冷地域であり、暴風雪による交通障害、冬期の長期停電などの可能性が高く、これまでの想定を超える災害に備える必要がある。また、平成25年3月には、道東地方を中心に暴風雪に見舞われ、多くの尊い命が奪われた。このため、各地域において、地域の実情に応じた災害に備え、災害発生時に適切な対応や避難行動をとるための意識を高めるとともに、人口減少や超高齢化が進展する地域において、住民同士の絆を深め、住民主体の防災体制や人材育成、関係機関のネットワーク化を構築する必要がある。

(2) わらい

「北海道防災キャンプ」の実施を通して、地域住民や児童生徒の防災意識を高めるとともに、学校、家庭、地域が連携して、これからの防災教育の中核を担う高校生などの青少年リーダーを養成し、地域における防災体制の確立を目指す。また「全道防災教育研究フォーラム」を開催し、学校や地域における防災教育や地域の防災活動について特色ある取組の普及に努め、道内各地域における防災教育や防災活動の充実を図る。

2. 実施概要

(1) 実施主体

主催：訓子府町教育委員会

主管：訓子府町防災キャンプ実行委員会

協力：北海道、北海道教育庁、北海道オホーツク総合振興局、北海道教育庁オホーツク教育局、日本赤十字北海道看護大学(防災科目担当教官・災害学生サークル)、訓子府小学校、居武士小学校、訓子府中学校、訓子府高等学校、訓子府町社会教育委員、北見地区消防組合訓子府支署、防災士、訓子府町町内会連絡協議会、訓子府町実践会連絡協議会、訓子府町子ども会育成連絡協議会、訓子府町社会福祉協議会、訓子府町日赤奉仕団、きたみらい農業協同組合、訓子府町(総務課交通防災係)

(2) 開催実績

月 日	内 容
6月下旬	事業日程の調整及び運営体制の検討(教育委員会内部、各学校等)
7月2日	防災キャンプ推進事業第1回事業運営会議(札幌市)
7月6日	訓子府町防災キャンプ実行委員会設立準備会
7月9日	訓子府町防災キャンプ第1回実行委員会
8月27日	訓子府町防災キャンプ第2回実行委員会
9月13日	訓子府町防災キャンプ第1回青少年リーダー研修会
10月4日	訓子府町防災キャンプ第2回青少年リーダー研修会
10月10日～12日	訓子府町防災キャンプ(10月11日については訓子府町総合防災訓練と連携して実施)
11月5日	訓子府町防災キャンプ第3回実行委員会
1月14日	防災教育フォーラムにて防災キャンプについて報告(札幌市)
2月5日	防災キャンプ推進事業第2回事業運営会議(札幌市)

3. 防災キャンプ実施概要

(1) 運営体制

- ・日赤看護大学教授
- ・防災士
- ・子ども会会長
- ・訓子府町日赤奉仕団代表
- ・訓子府町町内会連絡協議会会長
- ・訓子府町実践会連絡協議会会長

- ・オホーツク総合振興局職員防災担当職員
- ・オホーツク教育局教育支援課職員
- ・消防支署長
- ・校長会会長
- ・訓子府高校校長
- ・社会福祉協議会会長
- ・社会教育委員会議議長
- ・農協関係者
- ・町職員防災担当

(2) 実施内容

【10月10日(土)】防災キャンプ1日目

○開会式

主催者挨拶、スタッフ紹介など

○防災キャンプの概要説明・防災について

【講師】防災士 西野 直樹

○アイスブレイクゲーム

【指導】高校生リーダー、大学生リーダー

○体験活動1 避難所開設体験

【講師】日赤北海道看護大学 根本昌宏教授・尾山とし子教授、防災士 西野直樹

○体験活動2 夕食(停電になっている、火が使えない想定)

【講師】訓子府町日赤奉仕団、日赤北海道看護大学 根本昌宏教授
尾山とし子教授、防災士 西野直樹

○防災ワーク 新聞紙で作るスリッパ講習

【講師】日赤北海道看護大学教授 根本昌宏、大学生リーダー

○体験活動3 救急法について

【講師】北見地区消防組合消防署訓子府支署

○避難所での寝床準備、就寝中の注意事項

①明かり(ろうそく体験) ②寝床(段ボールや毛布など)

【講師】日赤北海道看護大学 根本昌宏教授・尾山とし子教授、防災士 西野直樹

○ふりかえり ①避難所開設 ②非常食の夕食 ③救急法の感想

→グループごとに発表

【10月11日(日)】防災キャンプ2日目

○体験活動4 朝食:非常食づくり

アルファ米とふりかけ、とん汁・けんちん汁

【講師】訓子府町日赤奉仕団、日赤北海道看護大学 根本昌宏教授
尾山とし子教授、防災士 西野直樹

○ふりかえり ①避難所の寝床の感想 ②朝食の感想

→グループごとに発表

○体験活動5 災害ゲーム～防災トランプ

【講師】訓子府町連絡協議会会長 南出守人、高校生リーダー、大学生リーダー

○講演1 どうして暴風雪がおきるの オホーツク編

【講師】気象予報士 菅井貴子氏

○体験活動6 昼食:自衛隊カレー(野外炊具車両)

【協力】陸上自衛隊美幌駐屯地

○体験活動7 非常用車両の見学・体験

①自衛隊特殊車、消防車、救急車 ②煙体験ハウス

【説明】北見地区消防組合消防署訓子府支署・陸上自衛隊美幌駐屯地

③除雪車両

【講師】訓子府町役場建設課係長、除雪車オペレーター

○体験活動7 (天候悪化により防災ヘリ中止のため)

避難所体験活動～デカゴン(大型テント)の組み立て

ダンボールワーク～「暖段はこベッド」を作成

【講師】日赤北海道看護大学 根本昌宏教授・尾山とし子教授、防災士 西野直樹



資材運びの様子



夕食の様子



講演 菅井先生と一緒に



除雪車両見学

○体験活動8 非常食作り ハイゼックスで豪華な夕食作り

- ①ハイゼックス炊飯で炊き込みご飯 ②せんべい汁(乾物)
③ポテトサラダ(スナック菓子) ④ハッシュドポテト(スナック菓子)
⑤棒麩のピザ風 ⑥甘味(ハイゼックスでおしるこ)

【講師】訓子府町日赤奉仕団(10名)、社会教育委員(2名)

日赤北海道看護大学 根本昌宏教授・尾山とし子教授、防災士 西野直樹
高校生リーダー、大学生リーダー、社会教育課職員



非常食づくり

○ふりかえり

- ①防災トランプ ②防災講演会 ③車両見学 ④非常食の夕食の感想
→グループごとに発表

【10月12日(月)】防災キャンプ3日目

○体験活動9 朝食:非常食づくり

- ①味付きアルファ米(おこわ、エビピラフ) ②焼き鳥缶詰、さんまの缶詰
③甘味(フルーツ缶)

【講師】日赤北海道看護大学 根本昌宏教授・尾山とし子教授、防災士 西野直樹
高校生リーダー、大学生リーダー



朝食準備

○3日間の防災キャンプをふりかえって

- ①防災キャンプで何が勉強になったか
②災害にあったときや、避難所に住むようなことがあった時にどのようなことができるのか
③防災キャンプの感想

○閉会式

主催者あいさつ、修了証授与、参加者感想、青少年リーダー修了証授与、
青少年リーダー感想

講評 日赤北海道看護大 根本昌宏教授



グループワークの様子

4. 普及啓発の実施概要

- ・「防災キャンプ」参加募集チラシの作成
学校や子ども会での児童生徒へのチラシの配布
- ・報道関係への記事掲載依頼
「防災キャンプ」参加募集、実施内容について掲載
- ・町広報誌を活用した普及啓発
「防災キャンプ」参加募集、実施内容について掲載
- ・町生涯学習情報紙「まなべる」を活用した普及啓発
「防災キャンプ」参加募集、実施内容について掲載
- ・WEB(町のホームページ)を活用した普及啓発
「防災キャンプ」参加募集、実施内容について掲載

5. 成果と課題

(1) 事業成果

- ・参加者の感想として、「友達の協力なしでは荷物も運べなかった。自分の事も他人の事も考えて行動する必要がある」「防災キャンプで学んだことを家族や学校で話をしたいと思った」「防災キャンプでは様々なことを学ぶことができ、楽しかった」などがあげられた。
- ・今回の防災キャンプは、町内外の防災組織や地域の関係機関・団体の方で実行委員を組織して行い、実行委員のメンバーには事前準備や講師等として多くの場面でご協力いただいた。特に地域の防災士や厳冬期の防災を研究している大学機関の実行委員が指導者として参加していただいたことと、青少年リーダーとして地元の訓子府高校の生徒と日赤北海道看護大学の防災サークルの学生に参加していただいたことで、より実践的で効果的な事業展開を行うことができた。
- ・防災キャンプ2日目については、町の総合防災訓練と連携して実施したため、共通プログラムの実施や、防災キャンプの意義を多くの町民に知っていただくことができた。
- ・近年、道東地区で多発している暴風雪への対応について、かなり詳細に学ぶことができた。

(2) 事業運営上の課題

・学校教育との連携については、青少年リーダーとして活躍していただいた。訓子府高校とは多くの連携が図られたが、参加者対象の小中学校についてはさらに連携を深め、学校における防災教育につなげることができるようにしたい。

・天候に左右されるプログラムについて、別プログラムを考えるのは勿論の事、防災キャンプという非常時への対応を学ぶプログラムの性格上、運営者側のスキルアップも必要と感じた。そのため、事業後ではあったが、運営担当については、道主催の地域防災マスターや日赤北海道看護大学主催の避難所宿泊演習などに参加した。

(3) 事業成果の普及啓発の課題

・子どもの体験事業だけでなく、例えば親子で体験する等、大人を参加者に入れた形での避難所体験にも発展できると、訓子府町においての防災活動がますます活発になると感じる。

・今回の参加者から、来年度の実施の希望があったので、地域プラットフォームの実行委員と相談して何らかの形で防災教育の継続実施を検討したい。

・今後も子どもの体験事業に地域の関係機関・団体の方が実行委員としてかかわっていただくことで、地域ぐるみで防災教育活動や地域活動を実施することができると感じる。

6. 団体プロフィール

訓子府町教育委員会

所在地: 北海道常呂郡訓子府町東町400番地 訓子府町公民館内

訓子府町は人口5,260人(平成27年12月末住民基本台帳)、面積約190km²の町で、平成28年は開拓が入ってから120年の年となります。地名の「クネ・プ」はアイヌ語から来ており、「黒いところ、やち川にして水黒し」の意味があります。基幹産業は農業で、玉ねぎ、馬鈴薯、小麦、甜菜、水稻、メロンなどの畑作と酪農などを行っています。

